# 宮島静かなる史跡

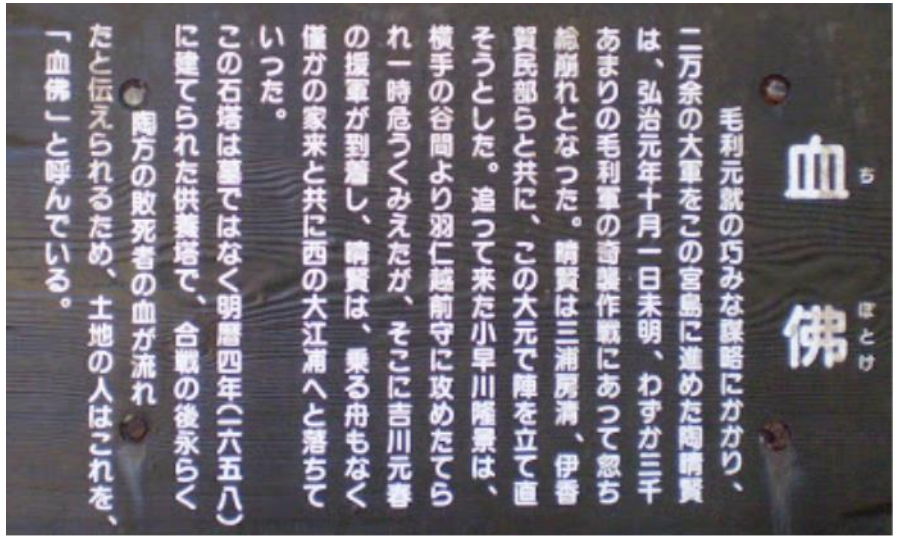
## ┃経ノ尾に建つ経塚（きょうづか）

２０１１年８月１日オープンした 「みやじマリン」（宮島水族館）のそばの小高い丘が経の尾（きょうのお）と呼ばれている。
文政８年（１８２５）に成る「藝藩通志巻１６名勝古蹟」に経の尾について 「大元へゆく路の岡にあり、傳へ云、平相国（平清盛）が一石一字（いっせきいちじ）の法華経を、こゝに埋めしと、今も一石搭あり、其処より経字石を出すことあり、此地の草樹は、采樵（きこり）すれば祟（たた）りありとて取らず」とあります。
経塚は、貴族たちが法華経を石に書写（石経）し、土に埋めれば浄土に行けるという浄土教の信仰から平安中期から近世にかけて行われたものです。写真の積石、経塚（清盛塚）などは後世のものといわれています。
昭和１９年（１９４４）開墾のため発掘時、素焼の甕｛かめ｝や宋期の白磁製盒子（ごうし）、梅花双雀鏡などが発見され、厳島神社に非公開で収蔵されています。

## ┃血佛（ちぼとけ）

⇒ お主サイトトップページ

明暦４年（１６５８）に建立された嚴島合戦の陶晴賢方敗死者の供養塔



## ┃勝山城跡（かつやまじょうし）

## ┃多宝塔（たほうとう）

大永３年（１５２３）建立、

## ┃宮島奉行所跡（みやじまぶぎょうしょあと）

広島藩は寛永１２年（1635）宮島奉行所を設置、明治維新まで町方として支配（旧宮島支所）

## ┃五重塔（ごじゅうのとう）

応永４年（１４０７）創建、天文２年（１５３３）
修理された嚴島神社五重塔

## ┃神泉寺跡（しんせんじあと・・・時寺）

## ┃「誓眞大徳頌徳碑（せいしんだいとくしょうとくひ）」

"隠居場”に建つ

## ┃宮尾城（みやのおじょう）のあった要害山（ようがいざん）

## ┃山辺の小径（やまべのこみち）

## ▎塔の岡（とうのうか）

戦国時代以八上人開基浄土宗「光明院」境内横"隠居場"より
陶晴賢の本陣「塔の岡」を望む

## ▎宮崎（みやざき）

西松原（にしのまつばら）より豊国神社（ほうこくじんじゃ
・・千畳閣）のある宮崎を望む

## ▎知られざる大鳥居（おおとりい）の仕組み

1400 年の歴史をもつ日本全国に約 500 社ある厳島神社の総本社の社殿のある三笠浜（みかさのはま）を囲むように突出した東の宮崎と西の西崎との間に、本社火焼前（ひたさき）より八十八間の沖合に高さ 16 ㍍の朱の大鳥居が建つ。
木造両部鳥居形式で高さ１６m、笠木の下の島木の中にこぶし大の玉石が積めらて荷重を与え、鳥居の根元は松の杭を数千本も打ち、その上に布石を並べ基礎としている。

大願寺の記録によれば、西暦 1286 年 11 月 19 日再建、北朝 1371 年 5 月再建、1547 年大内義隆再建、1562 年 1 月 13 日毛利元就・隆元再建（大願寺文書 121 号より永禄 4 年 11 月 28 日と日付類推)、元文四年九月五日落成、享和元年四月二十五日落成、明治八年七月十七日上梁と七回再建されている。巷間、平安末期以来、明治八年の建立で八代と云われている。

## ┃高欄の擬宝珠（こうらんのぎぼし）棚守房顕銘刻印

厳島神社本社祓殿前の平舞台に朱塗りの高欄（欄干）を設けた高舞台に天文１５年（１５４６）棚守房顕（たなもりふさあき）と刻印のある擬宝珠（ぎぼし・・欄干の柱頂部の飾り）がある。この高舞台は組み立て式の舞楽の舞台として棚守房顕により作られたものであり、江戸時代初期に現在のような作り付けの構造になったと考えられている。

「木帽子を鋳奉る八つの内檀那塔棚守左近将監房顕時二天文十五年丙午六月」（きぼうしをいたてまつる　やっつのうち　だんなとうたなもりさこんのしょうげんふさあき　ときにてんぶんじゅうごねんひのえうまろくがつ）の刻印が今に残る。

## ┃毛利元就厳島合戦上陸の地

毛利元就上陸之跡・・包ケ浦

## 厳島合戦跡

## 厳島合戦の年号について

安芸の国の毛利元就と陶晴賢の「厳島合戦」は弘治元年 10 月 1 日と弘治元年と錯誤されてきましたが、弘治に改元されたのは天文 24 年 10 月 23 日です。

弘治改元理由：兵革
改元日：天文二十四年十月二十三日
出典：「北斉書」：「祇承二宝命一、志弘二治体一」/選者：菅原長雅

弘治元年 10 月 1 日の時点では、改元前であり、
厳島合戦は、正しくは天文 24 年 10 月 1 日と天文 24 年にすべきと。

## ▎平清盛 / 万燈会(まんとうえ)

治承元年（１１７７）１０月１３日、翌日の千僧供養のいわば前夜祭として万燈会が行われた。
厳島神社を包むように突出した宮崎と西崎の間、大鳥居の外に柵を仮設し、３尺間隔で松明を上下２段に結び、対岸にも同様に施し、東西回廊に列座する千僧の座の背後にも松明を林立。やがて一斉に火が点じられ、波に映る光明世界は海底ひとへに火を敷くが如しさまであった。

（参考文献：「広島県史　古代中世資料編Ⅲ」　P1472～1476 / 画像：宮島連絡船待合室放映ビデオより撮影・加工）

## ▎清盛の霊を祀っていた神社 三翁神社（さんのうじんじゃ）

久安二年（ 1146）安芸守に任ぜられた平清盛（別名平相国）は、その在任期間中に厳島神社の隆盛に寄与した。

「三翁神社」は、平安時代、平清盛が比叡山の日枝神社から勧進したものと伝えられており、伊都岐島千僧供養日記では「比叡社の檀」とある。また新出厳島文書一〇三「伊都岐島社神官等申状案」には仁治二年（1241 ）「山王社一宇一間二面」また「山王拝殿一宇、五間二面桧皮葺、同釘貫三十二間、同鳥居一基」と記されている。天正十九年（一五九一）再建（広島県神社誌三四二頁）。

古くは「山王社」と称していたが、その後、明治の神仏分離令以来「三翁神社」と名を変え破壊をまぬがれた。
明治 43 年、宮島浜之町の水天宮神社を合祀し、安徳天皇、二位尼、大綿津見命を祭神に加えた。

〈三翁神社御祭神〉

| | |
|---|---|
| 左殿(向かって右) | 大己貴神(おおなむちのかみ)・　猿田彦神(さるたひこのかみ) |
| 中殿 | 大綿津見神(おおわたつみのかみ)・安徳(あんとく)天皇(てんのう)・佐伯鞍職(さえきくのくらもと)・二位(にいの)尼(あま) ・所翁(ところのおきな) ・岩木翁(いわきのおきな) |
| 右殿(向かって左) | 御子内侍(みこないし)・徳寿(とくじゅ)内侍・竹林内侍(たかばやしないし) |

## ▎清盛死後七百七十年にあたり清盛神社建立

古来、尊敬する人物は、その霊を慰めるため、神社を建て、お祀まつりしていたと云われている。宮島と縁浅（えんあさ）からぬ清盛に対する島民の思いは、強いものがあり、現在、西松原に鎮座する清盛神社は、昭和二十七年清盛死後七百七十年にあたり、それを期し、清盛の恩に報いるため、また清盛はどこにも祀られていないということで一層機運が盛り上がる中、発願に至り、ようやく昭和二十九年三月二十日に新しく社が建立され、御神体もそのとき移された。

三翁神社　さんのうじんじゃ

清盛神社　きよもりじんじゃ

## ▎仁王門跡

伊勢町から長浜に通じる石段の上に仁王門跡はある。

「藝州厳島圖會」巻之二　207 頁
小浦に描かれた二王門

さいき図書館所蔵「厳島誌」重田定一　明治 43 年 6 月 28 日刊　137 頁によれば、
仁王門跡は、今伊勢社の東に在りて、杉浦道（すぎのうらどう）に當る。
延寶 6 年再建のもの今廃れて、力士像は大願寺に在り。
「厳島圖會」巻 2 に圖あり。

「藝州厳島圖會」　巻之二　57 頁(上巻)によれば、
二王門
同所にあり。往昔（むかし）本宮の二王門なりといへれど其證（そのあかし）なし。延宝 6 年ふたゝび創立す。この辺も櫻樹（さくら）多し。